

Topic 30

米国ニュージャージー州の VCP

- 1) こんなところです
- 2) BDA (ブラウンフィールド開発地域)イニシャティブ
- 3) 再開発に適切なブラウンフィールドサイトを探すには？

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。今週はニュージャージー州にスポットを当ててブラウンフィールド再開発をみてみます。

1) こんなところです

ニュージャージー州は、東は大西洋、北はニューヨーク州と接しているひょうたん型の州です。本州は、1787年12月18日、3番目に米国に加入しました。州の総人口は約870万人、人口密度は440人弱/km²。米国において最も人口密度が高い州です。

米国で定番のビジネス雑誌「Fortune マガジン」が毎年恒例で発表する「Fortune 500 companies (成功している企業 500)」でランキングされた企業の約20%以上が、ニュージャージー州に本社をおいている、またはニュージャージーから出発した企業だと言われています。ここには起業スピリットが根付いているようで、雇用が次々と創出されている歴史があります。州の失業率もかなり低めです。

「起業」と「ニュージャージー」というキーワードから連想するのは、トーマス エジソン。発明家および起業家の世界的象徴ではないでしょうか。彼の出身地はオハイオ州ですが、研究所を設立したのはニュージャージー州でしたね。

この州の経済は、農業、観光業、機器製造業、製薬業など多岐にわたる産業の展開によって支えられています。ニューヨーク市やフィラデルフィア市の中間に位置しているという地理条件にも助けられ、産業が活発化して失業率も低い。それは大変結構なのですが、それに比例して環境問題も深刻なのです。特に油による環境汚染は、中東についてひどいのではないかと噂されるほど。「庭園の州」というニックネームとは相反して、主要幹線道路を車で通りすぎればブラウンフィールドの風景。さて、州はこの事実はどう対応し、どのような活動を展開しているのでしょうか。

2) BDA (ブラウンフィールド開発地域)イニシャティブ

ブラウンフィールドの管轄役である州の環境保護部 (NHDEP) の調査によると、州内には約23,000もの汚染サイトが存在し、その中の約10,000サイトがブラウンフィールドであると見積

もられています。ニュージャージー州の総面積は約 2.26 万 k m²ですから、単純計算すると 1.5km おきぐらいの間隔でブラウンフィールドが存在していることになりますね。

この州の活動で注目したいのは「ブラウンフィールド開発地域 (BDA) イニシャティブ」。

これは、2005 年 2 月にニュージャージー州知事が、州の経済成長と汚染地の浄化を促す目的で施行させた州法に基づいて作られた比較的新しい組織で、コミュニティーによる浄化と開発を促し、雇用促進をめざしています。上で述べたように、この州ではコミュニティーが抱えるブラウンフィールドの数がおおく、一つ一つのサイトを個別に対応しては追いつかないでしょう、ひとまとめにしてコミュニティーを州が支援する、という形がとられています。NJDEP によって選定されたコミュニティーに対しては、州の経済開発局、コミュニティー関連局、およびスマート グロース事務局 (都市の成長管理局) を巻き込んで、持続可能性にチャレンジした再開発を目指す様々な支援が提供されます。

現在、8つのコミュニティーが BDA になっており、次いで 7つが指定されることになっています。

3) 再開発に適切なブラウンフィールドサイトを探すには？

NJDEP が監督しているサイト情報 (ブラウンフィールドを含む) は、自治体毎に整理した形でデータベース化されています。データベースは 2つあり、1つは全サイトを閲覧できるリスト形式のもの、もうひとつは GIS 上のもので、どちらもウェブサイトから簡単に情報を得ることができますし、もしも追加情報が必要な場合は、だれでも情報公開を請求することが可能です。

また、ニュージャージー州はビジネスの州ということあって、「私のビジネスにピッタリのブラウンフィールドは、どこで探せばよいの？」という質問に NJDEP が答えているページがあります。提示されている方法は、先にご紹介した NJDEP のデータベース、そして州の再開発当局によって管理されている「サイト マート (土地の競売場)」というデータベースを利用することが挙げられています。ただし、最新の確かな情報を得るには、地方の経済開発責任者とコンタクトを取るのがベストです、というコメントもありました。ここで再度認識するのは、ブラウンフィールド再開発におけるデータベースと情報公開の重要性ですね。

前段で、この州全体では失業率が低いということを述べましたが、ブラウンフィールド再開発を通して、さらに雇用を増やす努力をしているようですね。ニュージャージー州のブラウンフィールドの取り組みにご興味のある方は<http://www.nj.gov/dep/srp/brownfields/> をご覧になってください。

来週は、ペンシルベニア州の VCP をご紹介いたします。お楽しみに。

Thanks God It's Friday!

Thanks God It's Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 (t.sato@ers-co.jp)

坂野のつけたし (banno@ers-co.jp)

Nickname -- 「ガーデンステート」「はまぐりの州 (獲れるんです)」「独立の道 (アメリカ独立戦争の舞台)」「蚊の州 (決して多いわけでは...)」 ※カッコ内は坂野のコメントでした。

事例紹介 -Camden and Newark (カムデンとニューワーク): 高校での落ちこぼれ率 70%、非就職率 16%、相対貧困率 (米国の所得分布の中央値の半分未満の所得しか得ていない人の割合) 40%。工業生産活動も衰退してブラウンフィールドが街のそこそこに現れる...。1998年にニュージャージー青年会に対して 20 万ドルのジョブトレーニングのためのブラウンフィールド補助金が交付されました。このプログラムでは、低所得者層の青年たちに生きていくために必要な基礎知識を授け、ブラウンフィールド再開発や環境技術に関するトレーニングを行ないます。卒業生はたとえばEPAでインターンシップとして働くこともあります。最初はブラウンフィールドなんて聞いたこともない青年たちが、地域の福祉・環境のために働くようになる、こういうサクセスストーリーもあるようです。 (http://www.epa.gov/brownfields/pdf/ss_njvo2.pdf)